

農のいとなみ 耕すこころ

すべて
入場無料
申込不要

講演Ⅰ. 11月3日(月・祝) 14:00-

「農業・農村を考える ― 場の農学の立場から ―」

講師: 祖田 修 (農学者・福井県立大学学長)

講演Ⅱ. 11月15日(土) 14:00-

「世界食料危機と日本農業・農村のあり方」

講師: 辻井 博 (農業経済学者・石川県立大学教授)

講演Ⅲ + 映画上映. 11月24日(月・祝)

映画上映 10:30- , 16:30- , 19:00-

「いのち耕す人々」 ……2006年 / 監督: 原村政樹 / 100分

アニメ映画「おもひでぼろぼろ」の原点の山形県高島町を舞台に「農」のよろこびを伝える感動ドキュメンタリー。

講演 14:00-

「農のよろこび ― 育てることの意味 ―」

講師: 星 寛治 (農民詩人・たかはた共生塾顧問)

講演Ⅳ. 11月30日(日) 14:00-

「農の営みへの作法」

講師: 内山 節 (哲学者・立教大学大学院特任教授)

□会場・問い合わせ先:

石川県西田幾多郎記念哲学館
石川県かほく市内日角井1 TEL(076)283-6600
www.city.kahoku.ishikawa.jp/nishida-museum/

農のいとなみ 耕すこころ

すべて
入場無料
申込不要

「飽食の時代」と言われます。
「食べることに飽きる」とはどういうことでしょうか。

私たちが生きていくためには、食べ物がが必要です。
どんなに立派な家に住み、キレイな服を着ていても、
安全な食べ物が十分になれば安心して暮らせません。

しかし、今の日本に生きる私たちは、^{グルメ}美食への関心はあっても、
あって当たり前の食べ物そのものには、おどろくほど無関心です。
そこには「あり難い」という意識も、無くなるという心配もありません。

例えば、当たり前のように存在する「水」は、
水不足にでもならなければ、特に関心もはられません。
そして、ただの水には飽きたらず、ポトル飲料を好んで飲むのです。

しかし、食べ物は、本当にあって当たり前なのでしょうか。

ここ数十年の日本には、確かに多くの食べ物がありましたか、
それは今後も当たり前のように続くのでしょうか。
この食べ物がありすぎる状況こそが、歴史的・地理的に見て、
むしろ普通ではない「異常事態」なのかもしれません。

異常なバブル経済がはじけたように、
やがてこの「食糧バブル」もはじけるのではないのでしょうか。

食べ物の根っこには、それを作り出す「農」があります。
生きていく糧となる食べ物。そして食べ物を作り出す「農」。
この「農」は、食べ物を作るだけでなく、人に喜びを与え、
人と人との結びつきを作り、自然環境を整えると同時に、
国内だけでなく、国際的にも政治・経済を動かします。

今回の特別企画では、四つの講演と映画上映を通して、
人が自然の中で食べ物を作る「農」という営みを
参加者の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

本当の世界は

我々が作ると共に

我々を作る世界である。

西田幾多郎

講演Ⅰ. 11月3日(月・祝) 14:00-

「農業・農村を考える ― 場の農学の立場から ―」

講師: 祖田 修 そだおさむ (農学者・福井県立大学学長)

1939年生まれ。京都大学農学部卒業。京都大学農学研究科教授、日本
農業経済学会会長、国土審議会特別委員、日本農学アカデミー会長など
を歴任。農学博士。京都大学名誉教授。放送大学客員教授。著書に『農
学原論』(地域農林経済学会特別賞受賞;日・中・英版)『着土の世界』(着
土の時代)『都市と農村の結合』『コメを考える』(市民農園のすすめ)など。

講演Ⅱ. 11月15日(土) 14:00-

「世界食料危機と日本農業・農村のあり方」

講師: 辻井 博 つじいひろし (農業経済学者・石川県立大学教授)

1941年生まれ。京都大学農学部卒業。イリノイ大学大学院(博士)修了。
国際食糧政策研究所(アメリカ)上級研究員、京都大学東南アジア研究セ
ンターバンコク事務所所長、京都大学大学院農学研究科教授などを歴
任。農学博士。京都大学名誉教授。著書に『世界コメ戦争』(農業発展の
ための農業保険)『農業物流通』(アジアにおける農業部門分析)など。

講演Ⅲ+映画上映. 11月24日(月・祝)

映画上映 10:30- , 16:30- , 19:00-

「いのち耕す人々」…2006年/監督:原村政樹/100分

今、日本の食糧自給率は4割を切り、“食”の安全性が問われています
が、30年も前から有機農業の大切さに気付き、ずっと取り組んでいる人
たちがいます。アニメ映画「おもひでぼろぼろ」の舞台にもなった山形県
高島町の食糧生産現場から“食”の大切さ・熱い思いを伝える感動のド
キュメンタリー映画です。

講演 14:00-

「農のよろこび ― 育てることの意味 ―」

講師: 星 寛治 ほしかんじ (農民詩人・たかはた共生塾顧問)

1935年生まれ。故郷の山形県高島町で半世紀以上農家を営む。73年に
地域青年と作った有機農業グループの活動がベストセラー小説『複合汚染』や
映画「いのち耕す人々」で紹介される。高島町教育委員長を16年間務め
た。元東京農業大学客員教授。著書に『耕す教育の時代―大地と心を耕
す人びと』『農から明日をよむ』(有機農業の力)『詩集・滅びない土』など。

講演Ⅳ. 11月30日(日) 14:00-

「農の営みへの作法」

講師: 内山 節 うちやまたかし (哲学者・立教大学大学院特任教授)

1950年生まれ。東京と群馬の山村・上野村との二重生活を送る哲学者。
NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。NPO法人「農と自然の研究所」
理事。著書に『自然と労働』(自然と人間の哲学)『森にかよう道』(農の営
みから)『地域の作法から』(山里紀行)『「里」という思想』(哲学の冒険)『貨
幣の思想史』(日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか)など。

石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1
TEL(076)283-6600/FAX(076)283-6320



■主催: かほく市 ■後援: 石川県、農林水産省北陸農政局、石川県農業会議、JA石川県中央会、石川県土地改良事業団体連合会、
石川県生活協同組合連合会、石川県農業振興協議会、河北郡市会、JA石川かほく、河北潟沿岸土地改良区、河北潟干拓土地改良区、
河北郡市農業振興協議会、かほく市農業委員会 ■協力: 石川県農業総合研究センター砂丘地農業試験場